

安全作業手順書【路面クラック補修】

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC～春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛鳥北IC,有松IC～上社JCT)
機器工具 ・車両	溶解釜、金属製容器、スコップ 清掃道具1式	保護具	皮手袋、軍手、保護マスク、保護メガネ 安全ぐつ、安全チョッキ、ヘルメット

可能性(A)	見積もり基準をした危険性の評価			
	重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)	
△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)	
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)	

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (優先すべき)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)			リスクの再見積り		
			(～なので～になる)			(A)	(B)	リスク	(私達はどうする)			(A)	(B)	リスク

準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1		
		作業員の役割(運転手、助手)を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する	○	△	2		
		作業場所及び車線を確認する	上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
		交通規制状況を確認する	必ず当日の規制簿を使用して	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
		使用機械、工具等の点検を行う	作業前に	作業中に機械が故障し、思わぬケガをする	△	×	4	作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う	○	○	1		
		しらすんだーの動作確認を行う	規制班と一緒に	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
		作業域後方に防護車両を配置する	移動規制に合わせて	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
		使用材料の安全データシートを確認し、取扱ひ方法、使用時の防護状況を把握し、危険性の周知を行う											

車両確認	 <p>セーフティーバイブル</p>	25.車両回送手順書に則る									
作業車両準備											
作業車両点検											
出発準備											

本作業	出発	25.車両回送手順書に則る									
	規制内進入										
	車両移動										
	停止										
	逃走防止										

使用機器等 準備	車両から必要機材を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指が挟まれて気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2	
	上流監視員の配置を確認する	規制班と調整して	後方の走行車両に気づかず追突・接触される	△	×	4	作業時は必ず一人監視員を配置し周囲に注意して作業を行う	△	○	2	
	材料加熱	適量のクラック補修材を溶解釜に投入する	手袋・防護マスク・防護メガネを着用して	周囲の可燃物に引火して火事になる	△	△	3	①材料加熱時は見張り員の配置・溶解釜の温度管理の実施 ②消火器を直ぐに取れる釜の近くに配置する	○	○	1
	適量を金属製容器に入れる	手袋・防護マスク・防護メガネを着用して	クラックシールが一般車に飛散する	△	△	3	作業時・加熱時は特に風向き及び風量に注意する	○	○	1	
	仕上げ	材料が完全に固まるまで養生を行う	破損がないか確認する	/	/	/	/	/	/	/	/
	片付け	車両に使用機器・道具等を横込む	運転者は飛散防止シートをかけ	シートを荷台にかけず、 回送中に荷物の荷物が飛散・落下してしまう	△	△	3	シート及びネットを必ず使用して飛散防止の養生を行う	○	△	2
	(離脱準備)	場内の確認をする	忘れ物、清掃漏れが無いか再度	出発前に確認を怠り、忘れ物等に気づかず離脱し 走行車両に接触する	△	△	3	現場監督者を含め二人以上で必ず場内の確認をしてから離脱する	○	△	2
	現場離脱 及び	25.車両回送手順書に則る									
	帰着	25.車両回送手順書に則る									
	駐車										

本作業	後処理	溶解釜の清掃 運転日報・車両使用日報を作成する	釜の側面(外側)の付着材料の除去を行う 責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
	気象条件	気象条件により作業方法を考慮する	①強風の日 ②雨上がりの日	①強風により塗布中のクラックシールが飛散し火傷する ②路面に残った水分が高温のクラックシールと反応し爆発する	△	×	4	①クラックシールを塗布する高さに注意して作業する ②フロア等で路面を乾燥させてからクラックシールを塗布する	○	○	1

1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地でKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。										
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

特記	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にパルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライダバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②パルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逃走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逃走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1